マルヒロかわら版

2026年
耳板 11月号
発行者
マルヒロ不動産

～ エルニーニョ現象のお話し ～

そろそろ冬の便りを目にする時期となってきました。
気象庁は今年の冬を暖冬傾向と予想していて、その背景には、冬にかけて過去最大の強さが続く見込みの「エルニーニョ現象」によるものとみられています。
ただし、暖冬だからといって寒波や雪の可能性がなくなるわけでは無いようです。
今月はエルニーニョ現象のお話しです。

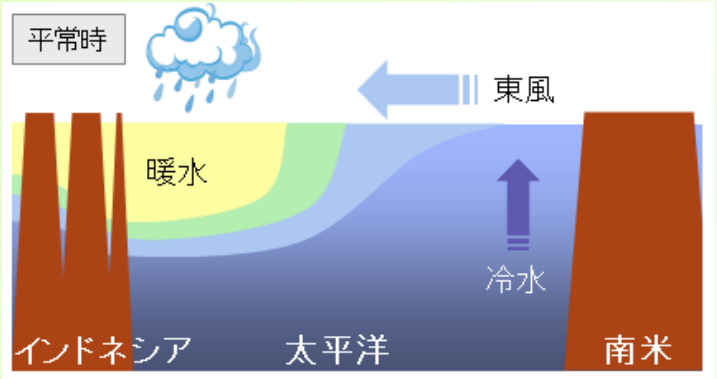


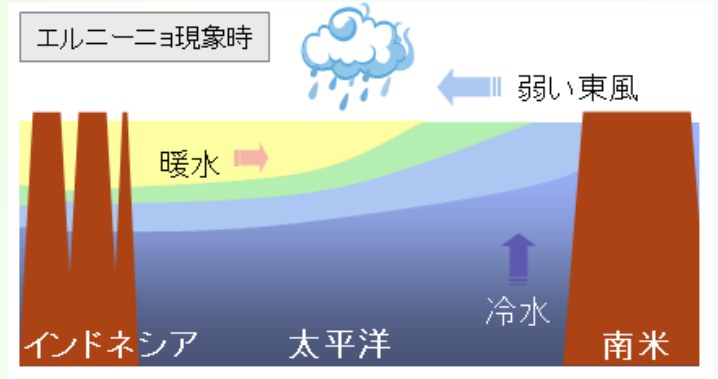
そもそも
エルニーニョ現象って？



赤道付近の太平洋東部から南米沿岸にかけて
海面水温が平年より高くなり、その状態が１年程度
続く現象です。

気象庁では、太平洋赤道域の指定海域で海面水温が
平年より0.5℃以上高い状態が半年以上続いた場合を
「エルニーニョ現象」としています





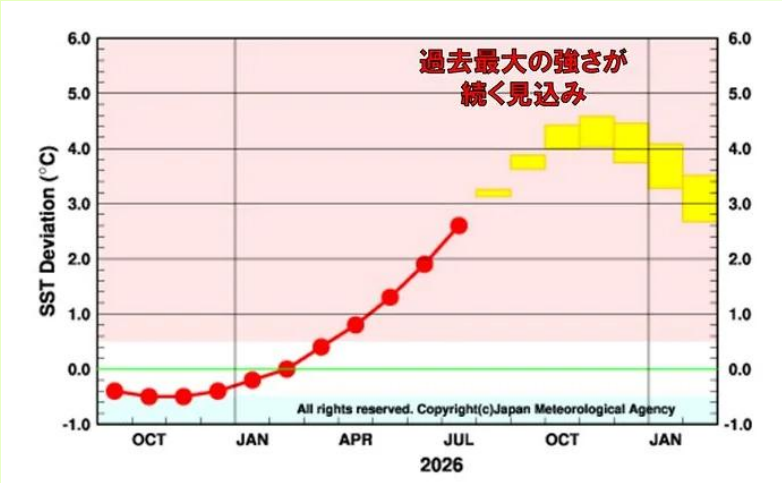
＜ちなみに…＞

エルニーニョ（El Niño）はスペイン語で「幼子イエス・キリスト」を意味します。
その由来は、ペルー北部の漁師たちがクリスマスの頃に現れる暖流を、キリストの誕生になぞらえて「エルニーニョ」と呼んだことにあるそうです。

現在続いているエルニーニョ現象は、過去最大の強さとなっています。
右の図は、2026年12月～2027年2月の海面水温予想図です。

気象庁によると、2026年春から特徴が次第に強まり、今後も冬にかけてこの状態が続く見込みとのことです。

エルニーニョ現象は、太平洋赤道域の中部から東部で海面水温が平年より高くなり、大気の流れにも変化が現れる現象で、台風が多発する事態もすでに起こっています。
それだけ世界各地の天候に影響を及ぼすことが知られています。



エルニーニョ監視海域の監視指数（海面水温の基準値との差）の5か月移動平均値の経過と予測

現在は太平洋赤道域の中部から東部で海面水温の高い状態が続いており、今後も海洋と大気の相互作用によって最盛期を迎える見込みのようです。

～ 暖冬でも寒波や雪はあり得る！？ ～

暖冬と聞くと、雪が少なく穏やかな冬をイメージするかもしれませんが、暖冬とは冬の平均気温が平年より高いことを意味していて寒波が来ないことを意味するわけではないそうです。

気象庁は、今年の冬は低気圧の影響を受けやすいと予想していて日本気象協会が発表した長期予報では、低気圧の影響を受けやすく通過後には一時的に強い寒気が流れ込むことで、寒暖の変動が大きくなりやすいと予想しています。



さらに、南岸低気圧が通過しやすくなるため、普段雪の少ない地域での大雪にも注意が必要として、暖冬予想でも一時的な寒気の南下や低気圧の通過によって、雪や厳しい寒さとなる可能性があります。

「暖冬＝雪が少なく穏やかな冬」とは限らず、寒暖差の大きい冬となるようです。

「お住まいの
修繕チェックしませんか？」

年末大掃除の前に
備えておきましょう！

https://maruhiro2103.co.jp

私たちは、土地や建物の仲介のみではなく、
声かけ頂ければ、何でもお役に立てます。
～土地・建物のよろず屋～

マルヒロ不動産(株)
名古屋市中村区横前町１０９番地
℡：０５２－４１３－４６２８

